

発行：ひとちなか市の環境を良くする会
 会長 栗田 裕子
 編集：広報委員会
 監修：ひとちなか市環境保全課
 TEL：029-273-0111 (内3312)

環境から版

環境四季時計「冬祭り」 環境シンポジウム開かれる

2月6日(土)午後1時30分からワークプラザ勝田(多目的ホール)にて、市と本会共催の「環境シンポジウム2016」を開催しました。

栗田会長と本間市長の挨拶後、27年度「環境保全啓発ポスターコンクール」受賞者の表彰式を行い、その後、3つの学校と1事業所による環境活動の発表が行われました。発表後、茨城大学原口教授から、「環境を通じた取組が、子どもたちの心に深く刻まれていて、これからの持続可能な社会を支えることに繋がる。」との講評がありました。また、地球温暖化防止、低炭素経済(社会)発展の仕組みについて説明がありました。



環境保全啓発ポスターコンクール
 受賞者の皆さん
 景品のおたのしみ抽選会でも盛り上がりました。
 内容は、ブログに掲載してあります。

また、事業所・団体会員から提供して頂いた景品のおたのしみ抽選会でも盛り上がりました。内容は、ブログに掲載してあります。



1月16日(土)午後3時からフ
 アッションクルーズニューポート
 ひたちなかで、冬の地球温暖化防
 止キャンペーンを行いました。
 週末で賑わう店内の3か所地球温暖化防止啓発チラシ、環境シ

1月16日(土)午後3時からフ
 アッションクルーズニューポート
 ひたちなかで、冬の地球温暖化防
 止キャンペーンを行いました。
 週末で賑わう店内の3か所地球温暖化防止啓発チラシ、環境シ

地球温暖化防止にご協力を！



那珂湊第一小学校「今も、未来も、幸せに暮らせる社会のために」中丸川の水の汚れについて、家庭から出るゴミの分析・分別などの環境学習の発表。



長堀小学校「三大体験活動から考える故郷」学校と地域との協力体制による自然環境を大切にする活動の発表。

総会のお知らせ
 日時：4月23日(土)午前10時
 場所：ワークプラザ勝田大会議室

ンポジウムの案内とマスクセットを1000部、手渡しながら協力を呼びかけました。受け取ったチラシを広げて読んでいる人も多く見受けられ、地球温暖化防止、省エネ・節電について関心の高さを感じました。



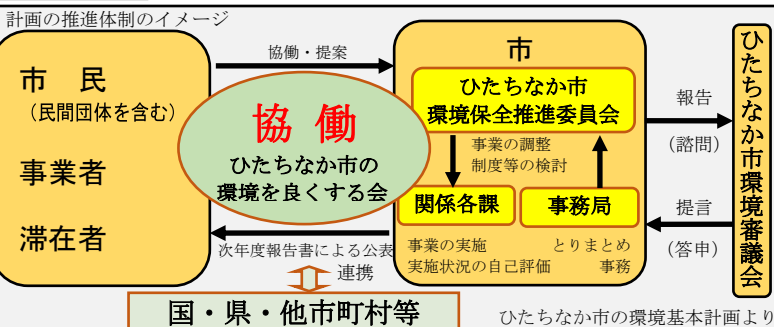
茨城高専・ジャグリング同好会によるアトラクション



リコーインダストリー(株)「環境保全と利益創出の同時実現」環境保全活動を通じて利益を創出し、経営と一体になって継続的に環境保全を進める環境経営についての発表。



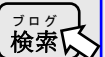
阿字ヶ浦中学校「地域に残る貴重な自然の保護活動」沢田湧水地に生息する生物・植物の保全・維持活動と長年継続しているスカシユリの球根の育成・栽培についての発表。



本会は、「ひとちなか市環境基本計画」に基づいて設立され、市民の身近な自然や環境を大切にすることを育むこと、環境保全行動の定着を図ることを目的に活動しています。具体的には、ごみ問題、地球温暖化防止、自然環境保全のテーマ毎に取組を計画し活動を行っています。

問合せ・申込先：ひとちなか市環境保全課
 TEL273-0111 (内線3312)

ひとちなか市の環境を良くする



環境活動 この1年を振り返る

本会には3つの環境分野の分科会があり、それぞれが企画、立案し活動しています。会員はどの分科会の活動にも参加できます。

ごみ問題分科会

「生ごみ堆肥化」について

念願の市長との懇談実現



懇談室にて懇談

平成28年2月1日、懇談に出席した8名は生ごみ堆肥化に寄せた熱い思いを市長に話しました。その内容は、生ごみ堆肥化による循環型まちづくりは私達の夢であること。生ごみ提供者の堆肥化

に対する前向きな声に感動したこと。堆肥作りの初年度は、最適な材料配合を決めるため4通りの組み合わせで実験したこと。生ごみや干し芋加工残渣の堆肥化の活用は、資源循環型社会、環境保全型農業の実現には不可欠なこと。段ボールコンポストの普及により、生ごみ堆肥化に関心を持つ市民を増やしたいこと。生ごみ堆肥化が焼却ごみの減量に繋がることを実感したこと。などでした。

市長からは、市の現状などを話し

て頂き、有意義な懇談となりました。そのほか、昨年1月、一般家庭の生ごみ提供による堆肥完成。7月、干し芋加工残渣堆肥完成。9月、生ごみ堆肥化についての提言書と干し芋加工残渣堆肥化試験報告書を市へ提出しました。また6月以降、家庭で出来る段ボール箱を用いた生ごみ堆肥化に取り組んでいます。

環境四季時計「秋祭り」では、企画を担当し、段ボールコンポストをPRしました。

自然環境分科会

美田多・名平洞・多良崎を拠点に



伐採した竹の搬出作業

3月―春祭り。名平洞公園で自然観察を案内し竹トンボ、篠鉄砲、竹ボックリなどの遊具を提供しました。

4月―美田多地内風致

温暖化防止分科会

「緑のカーテン」にチャレンジ

節電や省エネなどエコライフの実践・啓発が主な活動であり、7月に開かれた環境四季時計「夏祭り」では企画を担当し、「節電」をテーマに参加者と交流を深めました。6月から8月にかけて、「緑のカーテンでエコチャレンジ」の企画を会員向けに初めて実施しました。7名が参加し、うち3名は県の「緑のカーテンコンテスト」の団体部門にも参加しました。

恒例の地球温暖化防止啓発街頭キャンペーンを、8月に勝田駅周辺で、今年1月にファッシュョングルーズで(1面参照)それぞれ行いました。

フードマイレージの出前講座や、子ども向けの環境講座にも取り組みました。

地区の森林保全活動の一環として筍採りをしました。

5月―那珂湊体育館駐車場脇斜面に紫陽花や桜、桜など40株余を植樹。多良崎城跡公園にて斜面篠竹を延べ10名で刈るとともに、自然観察会を開催し35名が参加しました。

8月―夏祭り。東石川第二公園で竹細工遊具を提供しました。

10月以降毎月第3土曜日に美田多地内風致地区で森林保全活動を行いました。今年2月までに延べ86名が参加しました。小場江用水沿いの山道を復元しています。

わがまちの環境活動

津田げんき会

市を縦断する国道6号、早戸川を挟んで最西端に位置するのがわがまち津田地域です。

「地域の子どもの笑顔のために」と活動を始めて13年がたちます。

早戸川沿いで野鳥観察会、自然観察会(水質・川の流れの様子・川に生息する生物の観察)を、子どもたちと行いながら、地域の環境について問題提起や興味を促す活動をしています。

また、早戸川沿いの草刈り作業は、地域の有志の協力を得て年2回行い、5年前に多くの方々からの寄付で植樹したあじさいは、毎年見事な姿をみせてくれています。花壇の上流に皆で開設した「津田ふれあいの森」でも、子どもたちのにぎやかな声がこだましています。

どちらか管理が大変ですが、「誰かの笑顔のために」これからも仲間とともにがんばります。



活動の様子

環境ディスカッション 開催される

1月23日(土)午後1時30分から生涯学習センターにて、第8回環境ディスカッションを開き、次の2つのテーマについて討議しました。

テーマ①「エコ意識を高めるために」



グループ討議の様子

前回の環境ディスカッションで「エコ意識を高めるには」というテーマがありました。エコ意識についての共通の認識が必要であるとの意見があり、今回再び話し合いました。事前に課題(エコとは・エコ意識・エコ行動・エコ行動による効果を示すデータ)が出され、各自学習してグループ討議に臨みました。

エコ意識と行動については、各班とも、3Rや5R、節電、節水などの他、多くの省エネ・CO2削減行動が出されました。

エコ行動の効果を示すデータとして、電気、水道、ガス、灯油、ガソリンの使用量、ごみ排出量、リサイクル率、水質検査値があげられました。話し合いにより、自己の知識や

エコ行動を再確認できました。

テーマ②「本市でのグリーンカーテンの普及について」

提案者から「グリーンカーテン」の体験談や県内の取組み状況が話された後、全体討議に入りました。

まず、「グリーンカーテンの効果」について「CO2削減や節電に有効である」「室温が確かに下がった」「カーヤやパッションフルーツなどは食べられることも出来る」「朝顔はきれいだな」など、活発な意見とともに、「普及の必要性」も話題になりました。

一方、「部屋が暗くなり、照明が必要になった」や「学校や事業所では夏休み期間の水やりが大変」との問題点や課題も出されました。これに

対して、水やりの大変さを自作の自

動給水器で克服したという興味深い事例も出され、さらに、これらを環境かわら版で皆さんに知らせてはどうかとの提案がありました。

出前講座 地産地消とフードマイレージ

1月16日(土)に佐野図書館が主催した「子ども講座」の一つで「地産地消とフードマイレージ」というテーマでワークショップ形式の講座を行いました。児童は積極的な取り組みで、茨城産の食材や授業で習った

言葉がポンポン飛び出し、スムーズに進んでいきました。特に6種類のメニューの中からくじでひいた「てんぷらそば」の材料を選ぶゲームでは「めんつゆ」ではなく、「鰹節、昆布、しょうゆ、みりん」を選ぶなど私たちが思わずうなってしまうほどでした。

最後のまとめで食料自給率を上げる方法についての問いかけには、「地元でとれた食材を買う」という意見が出て、家庭での食に対する関心の高さを感じる事が出来ました。

遠くから食料を輸入することで燃料をたくさん使い、地球温暖化につながることもや、食べ物を残さずに食べることの大切さにもふれ有意義な講座となりました。講座に参加したことが食を考える機会となり、その子ども達から家族や友達に広がっていくことを期待します。



ミニポジウム、注目する箇所はそれぞれ

木質バイオマス発電施設の視察

2月12日(金)今年度第2回目の環境講座は、「再生可能エネルギーを見よう!」のテーマで、ひたちなか市高場にある北越紀州製紙(株)関東工場を見学しました。参加者43名で盛況でした。

この工場は古紙を原料に板紙を生産しており、木質系バイオマス発電と太陽光発電を行い、無公害操業、隣接住宅地域との共存を図っていました。私達は発電設備(木材チップ、紙製造過程で生ずるペーパースラッジ、石炭を燃料とする)と白板紙を生産する抄紙機を見学しました。発電量の半分を工場で使用、残りは売電。抄紙機は全長170mもある大型機械でした。

質疑応答...①木材を集める対象と範囲は?②建築廃材、関東一円。③製造技術のポイントは?④機械の維持管理。⑤灰の利用方法は?⑥路盤材として再利用。⑦地域社会と共存しながら環境に貢献する活動に感動した見学会でした。



見学後、参加者全員で写真撮影

編集者だより

桃栗3年柿8年。「環境を良くする会」が発足して8年。私が本会へ入会とともに、得意でもない「環境かわら版」の編集に携わるようになったのでしようか。

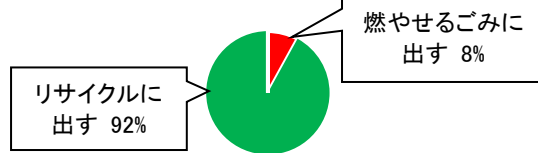
もっと気になるのは、「環境かわら版」は最初、会員以外の方には回覧板で知らされていましたが、私が入会した頃から市内全世帯に配られるように大きく変わったそうです。責任重大。今後とも皆さんにもっともっと美味しく食べて頂けるように、広報委員会の皆さんとともに、頑張っ

(山形)

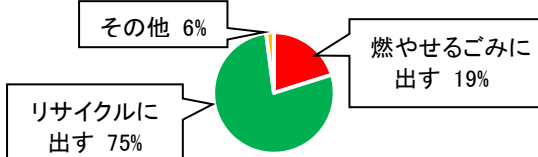
「食品包装材に思うこと」

ひたちなか市消費生活展(H27年10/31,11/1)で来場者150人にアンケートを行いました(10才代~80才代、男46人・女104人)

使い終わったペットボトルはどのようにしていますか?



食品包装袋(プラスチック)は?



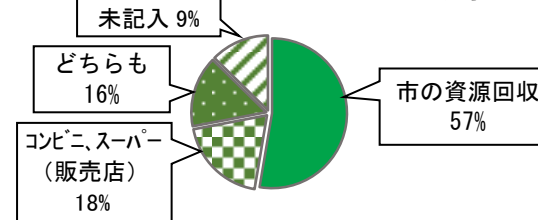
「燃やせるごみに出す」おもな理由は?

- ・分別が面倒
- ・市の資源回収日が少ない
- ・資源回収日まで家で保管できない
- ・プラスチックの分別がわからない
- ・資源回収ステーションが遠い

自由意見

- ・ひたちなか市自体でリサイクルしているかどうか不明。再利用している流れをPRしてはどうか(40代男性)
- ・資源回収場所や出し方が、引っ越してきたばかりでわからない(30代女性)

「リサイクルに出す」方は、どこに出していますか?



ひたちなか市の環境を良くする会 事業所会員の紹介

<p>セイメイヤ ひたちなか馬渡店</p>	<p>木質バイオマス発電所(株)バイオパワー勝田 ひたちなか市高野 1974-1 TEL029-270-3341</p>	<p>ひたちなか・東海 ハイトラスト株式会社 ひたちなか市新光町103-2 TEL(029)265-5371</p>	<p>化粧品・日用品・ アロマまで、石油系化学物質を使わない、人と環境を守る製品です。シナリー櫻季(株) TEL029-271-0766</p>	<p>廃棄物からエネルギーへ 私たちの使命は「地球をつなげること」 東田環境株式会社 ひたちなか市高野2554-2 (TEL)029-272-2143 http://www.katsukan.com</p>	<p>日立電動工具</p>
<p>Global Teamwork コマツ 茨城工場 〒312-0804 茨城県ひたちなか市長尾163-14 http://www.komatsu.co.jp/</p>	<p>ガーデン・エクステリアのデザイン・施工 Maki planning http://www.mams-garden.com/ プロが選ぶガーデン雑貨の専門店 Mam's garden http://www.makipla.com/</p>	<p>私たちは、 美しい地球を次の世代へ! のスローガンのもとに、一丸となって地球環境の経済的改善と環境汚染予防活動を推進しています。 (株)日立製作所水戸事業所</p>	<p>廃棄物の中間処理施設 KATSUTA 株式会社 カツタ ひたちなか市高野1968-2 TEL(029)270-3711(代) http://www.eco-katsuta.com/</p>	<p>リコーインダストリー(株) 勝田事業所 インクジェットヘッド ドットインプリンタ ひたちなか市武田1060 www.industry.rioh.co.jp</p>	<p>詳しくは環境を良くする会のブログをご覧ください。</p>